

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第33号

2025年（令和7年）7月11日発行

教師という職業の危うさと尊さに

向き合う

秋田県教育カウンセラー協会代表

佐藤 健吉

中国の古典「孟子」に次のような一節があります。

孟子曰人之患在好爲人師

卷第七：離婁章句上：二 三^{*1}

孟子は「人の患いは、人の師たらんことを好むにあり」^{*2}と述べ、教育に携わる者が抱える根源的な危険について警告しました。

教師とは、人間の根本的な価値に深く関わる職業であり、その在り方の真偽は、社会に大きな影響を与えます。真の教育者であろうとする意志と、偽りの自画像に甘んじる危うさとが、常に背中合わせに存在していると思います。

教育は、すぐに成果が見えるわけではなく、子どもたちは無抵抗のまま教師を受け入れる存在です。だからこそ、教師自身が無自覚に墮落してしまう危険をはらんでいます。自らの言葉や態度が、子どもの成長にどのような影響を与えるかを、教師は常に自問しなければなりません。

江戸時代、人々は教師に対して敬意と畏れの両方を抱いていました。たとえば「七尺去って師の影を踏むべからず」といった言葉には、教師という存在の重さへの深い認識が込められています。

教師は、外部からの批判の少ない閉ざされた環境の中で、気づかぬうちに慢心や偽善に陥る危険があります。子ども、保護者、

そして同僚からの無抵抗が、その安全地帯を温存してしまいがちです。そうした中で、「有徳者」を装い、自らを「道徳家」と錯覚してしまうこともあるでしょう。孔子が「道徳の泥棒」として厳しく糾弾したのは、まさにそのような偽善者の姿でした。

こうした危うさを超えていくためには、教師自身も「発達の途中にある一人の人間」であることを自覚する必要があります。それは、自らの未熟さを言い訳にするのではなく、常に学び続けようとする姿勢を意味します。

孔子は「昔の学者は自分を向上させるために学び、今の学者は学ぶ地位や名声を得るために学ぶ」^{*3}と語りました。現代の教師も、昔の学者のように自らの成長のために学び続ける必要があります。教育は、教師と子どもが互いを尊び合う「敬」によって成り立ちます。教師が子どもの内的世界を理解しようと努めることで、子どもと教師との信頼関係ができ、そして、教師が子どもの中に可能性や能力などを見出すとき、そこにはじめて本物の教育の営みが生まれるのです。

教育カウンセラーとして私たちもまた、この厳しくも尊い営みに伴走する存在でありたいと、あらためて感じています。

^{*1} 孟子（下）小林勝人訳注 岩波文庫 青204-2

^{*2} 人間の弱点は、少しもの知りになると、他人の師となってなんでも教えたがることである、という意味。（八重樫一）

^{*3} 論語：憲問第十四二五参照

「論語」岩波文庫 青 108-1金谷治訳注

トピック

つなげる つたえあう つくりだす

横手市主催【孤独・孤立対策推進フォーラム】

こども・若者ミライラボ

～もう一人で悩まない～

R7.5.17 横手市生涯学習館

横手市では令和7年度からの5年間「孤独・孤立（ひきこもり）対策推進計画」を策定。悩んでいる本人や家族を支援するとともに誰一人取り残さない社会を目指して、周知啓発を行うこととしている。

その中、この「こども・若者ミライラボ」が行われた。

【オープニングトーク】「ひとりぼっちだと感じているあなたへ」

佐藤さゆ里氏（横手市こども・若者相談窓口カウンセラー）

○市には3か所の適応教室がある。「今の自分そのものを待っていてくれる人がいる！」そんな場所で元気を回復し対人関係を充実させてそれぞれの道を選んでいったこどもたちがたくさんいる。

“孤独”である「ひとりぼっち」と“自己と向き合うことのできる”「ひとり」には大きな違いがある。悩まない人はいない。誰と？—どう悩むか？が重要。誰と？=自己の存在を分かってくれる人とどう悩むか？=自分にはない新しい見方・感じ方で上手にとともに悩んでいくことが大切。そして自分一人でも動けるし、困ったときは誰かに相談することもできる力をもって自分の道を歩んでほしい。

【パネルディスカッション】「頼りたくても頼れない、話したくても話せない時はどうする？」

パネリスト ①不登校体験者 江村 慎平氏（こども・若者相談窓口カウンセラー）

②家族会 齊藤 洋子氏（秋田市・ひきこもり家族会「にじの会」メンバー）

③支援者 佐藤さゆ里氏（横手市こども・若者相談窓口カウンセラー）

④支援者 松井 淳子氏（障がい者基幹相談支援員）

①「学年1位から不登校になった私が南かがやき教室に出会って元気になり、学校復帰してカウンセラーになった話」

※不登校から現在までを率直に語る。“かけがえない自分”を大事にできるかがやき教室のすばらしさや卒業生の活躍が伝わってきた。

②ひきこもり家族会「にじの会」

※こどもが不登校になり様々なところに通ったが自分には、「にじの会」が合っているなど思い通ってきた。他機関とも連携をとりながら見守る。こどもも少しずつ社会とつながっていった。無理強いさせない本当の支援がみえた。

③「頼ること・話すことってむずかしい」

※相談するって難しいと思うけど大切な自分を守るために大事な気持ちだもん、誰かに伝えていいんだよと話している…（省略）

④「横手市障がい者基幹支援センターについて」

※こどもや若者の相談数も増えて18歳未満受診は25年間で10倍。現在、児童思春期外来の受診へのつなぎ相談や居場所づくりに取り組んでいる。



←パネリストのみなさん

→会場:このほか広い通路の椅子席に約50名 会場は満員



つなげる つづける つちかう

～令和6年度：みなさんのご感想から～

講座・学習会に熱心にご参加下さった方も、また切望しても参加が叶わなかった方も、寄せられた感想をお読みいただき今後のブラッシュアップにつなげていただけたらと思います。

令和6年度は秋田支部でアフターコロナ初の対面での養成講座が行われました。

◎教育カウンセラー養成講座 (R6. 10. 12～14)

「構成的グループエンカウンター」 藤川章先生

「教育カウンセリング概論」 水上和夫先生

「不登校の理解と対応」「児童・思春期の子どもへの支援に生かす行動療法」 神村 栄一先生

「問題を抱える子どもへの対応 ①愛着障害の理解と支援 ②支援の実際」 米澤 好史先生

○1日目、実際にエンカウンターを体験したのは久しぶりに思いました。コロナ禍で忘れていた気持ちを出せた気がします。1日目のおかげで、求心力が働いて、みんなで学ぶ感覚を味わえました。2日目、認知行動療法における大きなメリットは、自分を悪者にしなくていいというところかなと思いました。性格や人格が悪くて問題を抱えているのではなく、望ましくない行動習慣が自分を苦しめているのです。だからそれを変えていけば糸口が見つかるかもしれません。そういった考え方は、人に勇気を与えてくれるように思います。3日目、米澤先生の講義はご縁があつて何度か聞かせていただいています。それでも今回は、キーパーソンとしての在り方モデルが大変参考になりました。SCとして、自分がキーパーソンになるパターン、学校の先生をキーパーソンとして支えるパターン、いずれも重要だと感じます。いずれの場合でも、保護者にキーパーソンを受け渡していく流れも必要なように感じました。実践を積んできたことで、講座の内容が今まで以上に染み渡るように感じます。実践と講座受講を両輪として頑張っていきたいです。

★詳しくはHPをご覧ください。

◎第5回あきた教育カウンセリング学習会

(R7. 1. 26)

教室のちょっと気になる子へのかかわり方～ペアレントトレーニングの方法を活用したよりよい学級経営を進めるためのヒント～

○今回は子どものよりよい行動を引き出すための行動記録表（BBC チャート）について学びました。誰が見ても同じ評価ができるが大切ですね。資料に示したポイントをもとにしていきたいものです。また、制止とペナルティの出し方についても子どもを認めるための手段の一つであることも忘れてはならないことだと思います。

◎第6回あきた教育カウンセリング学習会

(R7. 3. 23)

「児童生徒への支援における

教育・福祉の連携・協働」 佐藤秀一先生

○初めての参加で緊張しましたが、多様な職をもつ方々と意見を共有できた貴重な機会でした。特に、実際の事例について話し合えたことが印象に残っています。私はまだ学生で、実際の事例に向き合う時間も限られていて、リアリティなイメージになかなか至らなかったのですが、他の参加者の方々の話や秀一先生のお話を通して、新たな視点を得られたと感じています……

○昨年度に引き続き福祉領域の専門家をお招きしての学習会でしたが、今年度は、佐藤 秀一先生より事例を通して学ぶ貴重な機会となりました。秋田での現状を踏まえて、子どもへの支援についてさまざまな角度から検討することができました。……また、グループでの話し合いを全体で共有するのみではなく、講師の先生から各グループへのフィードバックがあり、また、支援方法についての新たな気づきがあり、大変充実した時間となりました。コンパッション（自身や他者に寄り添う能力）も改めて重要であると感じましたが、問題解決に向けての支援者としてパッション（熱意）も大切であることをご講義や質疑応答などを通して感じました。素晴らしい学びの時間を誠にありがとうございました。

研修講座・公開講演会 講師の先生方のご著書紹介



講座・講演前の予習として事前に読んだり，終了後にゆっくりと手にとりながら講義を振り返ったり，学んだことを整理することで，より役に立つ知識・技法につながると思われま

📖 小美野達之先生（弁護士）

「新訂版 生徒指導・進路指導論」（教育開発研究所）

※分担執筆部分は，「第7章 少年非行」

弁護士と教育学研究の二刀流の小美野先生です。教育行政，学校経営及び学校法務の研究者として，学問としての教育学の理論研究と理論を踏まえた上での教育・学校での実務の発展のための貢献をしたいと考えられている先生の執筆は社会の縮図ともいえる学校現場にとって心強いものです。（HPより抜粋）

📖 米澤 好史先生（和歌山大学教育学部 教授）

「愛着アセスメントツール」

「愛着アセスメントシート」 ※アセスメントツール別売りシートSTEP 1～4（各5枚 計20枚入）

（合同出版）

愛着障害・愛着の問題を査定するためのアセスメントシートをもとに，こどもを対象とした調査研究（山本・米澤2018）の結果を加えた最新のアセスメントツールです。愛着の問題から発生する行動はどれもやめさせようとする対応ではうまくいきません。

アセスメントシートはそうなる原因や理由がわかることで，その子に合った支援につながることを意識して解説しています。（前書きより抜粋）

📖 嶋根 卓也先生（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室長）

「SMARPP-24 物質使用障害治療プログラム[改訂版]—集団療法ワークブック」 （金剛出版）

薬物・アルコール依存症克服のための基本プログラム「SMARPP」。改訂版である本書は，時代とともに刻々と変化する薬物・アルコール依存症を取り巻く社会状況を踏まえ，当事者をはじめ，援助者，臨床・研究スタッフなど多くの関係者からの声，そして蓄積された臨床データ等を反映し，より現実に即した内容になっています。（金剛出版HPより）

編・集・後・記

「こども・若者ミライラボ ～もう，ひとりで悩まない～」に参加して

きつとこどもたちの未来は拓かれていくと感じたフォーラムだった。

25年も不登校のこどもたちと関わっているさゆ里先生，その愛弟子の江村先生をはじめパネラーの皆さんが，大らかな心とやわらかな笑顔でこどもたち一人一人がもつ力を信じて関わって下さっていることに，それに応えるようにこどもたちが成長していることに，こどもたちの未来が拓かれていることを感ぜずにはいられなかった。

そして，家族会のお母さんの物静かだが子らを思うゆえの力強い行動，民生児童委員の方々の地道な関わり，こどもたちを包み込む周りの思いや取り組みは，静かでゆるやかな波かもしれないが，やがて何かを動かすうねりとなっていくのではないだろうか。そんな波の一滴になれたらいいなと思う。

